

平成 30 年 3 月 9 日

**東日本大震災から7年。
クウェート国から贈られた約400億円の支援。
修学基金で被災地の医師を目指す学生が、大使へ思いを伝える。**

東日本大震災からもうすぐ7年。震災時にクウェート国から約400億円もの支援が被災地に寄せられたことをご存知ですか？

その支援により、宮城県では東北医科薬科大学に「クウェート国友好医学生修学基金」が設立されました。基金により学ぶ医師の卵、吉村拓人さん(同大学1年)は、クウェートの方にいつか一言お礼を伝えたいと願っていました。2月26日、その夢がかなう日がやってきました。東京にて急ぎよ、駐日クウェート国大使館のアブドル・ラーマン・アル・オテイビ大使に面会できることになったのです。



宮城県から上京した吉村さんは、「クウェート国に心から感謝しています。日々しっかりと学んで、将来、被災地の皆さんのために貢献することはもちろん、海外にも行き、支援してくれた世界中の人に恩返ししたい」と、少し緊張した面持ちで伝えました。オテイビ大使は、「70、80年代にクウェートのインフラ整備に日本人が力を貸してくれたことをクウェート人は皆知っています。私たちは皆さんの真の友人であることを忘れないでほしい」と述べ、また、吉村さんの思いを聞いて、「将来がとても楽しみです。5年後の卒業時にまたお会いしたい」と語り、握手を交わしました。

クウェート国は、2011年東日本大震災直後に原油500万バレルを日本政府に寄贈。約400億円にあたるこの支援金は、日本赤十字社を通じて、被災3県に配分されました。宮城県では、「クウェート国友好医学生修学基金」を設置して、現在、吉村さんを含む、60人が被災地での医師を目指して学んでいます。

